

だい しょう せいりゅうきし かくご  
第3章～聖竜騎士の覚悟～

リオとアイラは数々の困難を乗り越え、ついに「竜人の心」が眠るとされる洞窟へたどり着いた。

しかし、中へ入ろうとしたその瞬間……入口をふさぐように、巨大な鳥の石像が動き出した。

石像「中に入りたければ、まずはこの私を倒してから行け！」

リオ「よし、アイラ！一緒に倒そう！」 アイラ「ええ、もちろん！」

二人は力を合わせて立ち向かうが、石像の力は想像以上に強く、次第に押し込まれていく。

リオ「このままじゃ……でも、ボクたちは聖竜騎士になるために、ずっと頑張ってきたんだ！！！」

その叫びとともに、アイラの身体がまばゆい光に包まれた。

アイラ「……どうやら、今までの鍛錬と冒険で、新たな力を得たようです」

リオ「いこう、アイラ！今度こそ！」

二人は再び力を振り絞り、石像へと立ち向かうのだった。



なぞ11 アイラはリオとの冒険を通して進化をし、とある変化をした。この力を使って石像と闘おう。



示された場所に行き、① から進め。

進化の内容

② が ③ に見えたら ④ に進み ⑤ を探せ。

なぞ12

石像を倒した二人は、慎重に洞窟の奥へと進んでいった。薄暗い通路を抜けた先で、古びた石碑を見つける。

そこには、淡い光を放つ文字が刻まれていた。

「竜人の心が欲しければ  
勇敢な心を示せ」

リオとアイラは顔を見合わせ、息をのむ。最後の試練が今から始まる。

宝発見のキーワード記入欄

竜人の心が欲しければ勇敢な心を示せ。

勇敢な心を示す方法

- ① をささげよ。
- ② を台座にはめよ。
- ③ を作れ。
- ④ を開けて、⑤ をつけろ。

勇敢な心を示したとき、三角の先が行くべき場所を示す。その場所で木のそばを探せ。

宝発見報告は  
コチラ



https://takaruh-game.jp/moshimasure2026-report/

だい しょう せいりゅうきし あんない やー 十  
第1章～聖竜騎士の案内～

この国では、竜と共に歩む者の中で真にその力を認められた者だけが“聖竜騎士の試験”を受ける資格を与えられる。

そして今日、その封筒がリオとアイラのもとに届いた。

リオ「……あっ、ついにボクのところにも来たか！」

アイラ「聖竜騎士になると誓った日から、毎日努力してきましたからね」

リオは胸の高鳴りを抑えきれず、勢いよく封筒を開けた。

中には、紋章が押された“聖竜騎士試験の招待状”が入っている。

リオ「やったあ！これでボクも聖竜騎士になれるぞ！」

アイラ「……試験に合格したら、の話ですよ」

リオ「わかってるよ！よし、さっそく中身を確認しよう！」

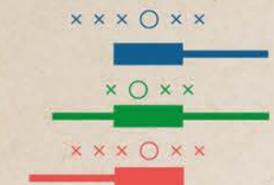
二人は並んで腰を下ろし、

招待状を広げた。

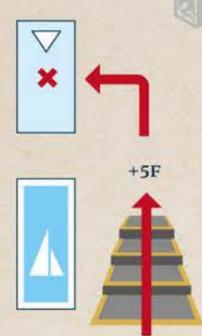


なぞ1

この地を通る3つの線の止まる場所。○が唯一異なる場所に向かえ。



示された地で×印を探せ。



なぞ2



示された地へ行き、唯一の光の下を探せ。

なぞ3

6→4→5  
8→0→5→3→8 ?

う	え
し	こ
む	まん
う	と
さ	一

示された地へ行き、白い販売機のみぎの側面を探せ。

なぞ4

なぞ1～3を解いて3つの手がかりが集まったら解け。

何があっても  
なぞ1の手がかり    なぞ2の手がかり    なぞ3の手がかり

3つの志で下の文字を読み、  
なぞ1の手がかり    なぞ2の手がかり    なぞ3の手がかり

志を持つべし。

示された地へ行き×印を探せ。

指示があるまで次のページを開かないでください

第2章～聖竜騎士の冒険～

招待状のなぞを解き明かしたリオとアイラは、ついに試験会場へとたどり着いた。

そこには、かつて二人を救ったあの聖竜騎士が立っていた。

聖竜騎士「よくぞここまでたどり着いた。君たちにはこのお守りを授けよう」

リオ「ありがとうございます！」

アイラ「ここからは……何をすればよいのでしょうか？」

聖竜騎士「君たちには、この地に眠る秘宝「竜人の心」を探してもらおう。それを手にすることができれば、試験は合格だ。だが、ここからは先は容易な道ではない……まずは腹ごしらえをしていくといい」



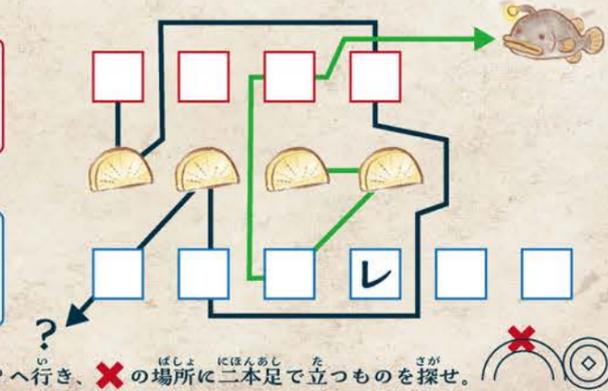
なぞ5

聖竜騎士に好物を伝えと、すぐに用意してくれた。

リオとアイラはしっかりと食事をとり、これから始まる冒険に備えたのだった。

アイラの好物

リオの好物



?へ行き、×の場所に二本足で立つものを探せ。

なぞ6

食事を終えた二人は、森へと向かった。森の中には障害物があり、行く手を阻んでくる。

「固い障害物で通れないな」

「任せてください。竜の武器である角で障害物を壊しますよ」

リオとアイラは力を合わせ、障害物を壊しながら前へと進んでいった。

森の入口から森の奥まで障害物を壊しながら最短で進み通った文字を読み。

リオは ① アイラは ② を壊すことができる。



示された場所の入口で×を探せ。

なぞ7

障害物を乗り越えた二人は、森の奥深くへと進んでいった。

すると、前方の茂みからたくさんのモンスターが姿を現し、気づけばあたり一面をモンスターたちが取り囲んでいた。

リオはすぐに剣を構え、迫ってくるモンスターに立ち向かった。



なぞ8

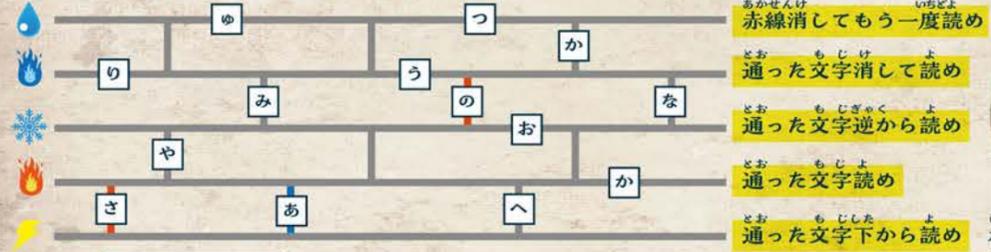
やっとのことでモンスターを倒したリオ。「ふう……これで終わったかな」そう思った瞬間、二人の前に

地面を揺らすほどの巨大な影が現れた。ゆっくりと顔を上げると……

そこには、さっきのモンスターたちを従える「親玉」の姿があった。

「ここは私が！」アイラは大きく翼を広げ、その巨体に向かってまっすぐ立ち向かった。

アイラのだせるものからあみだくじをたどれ。



アイラは  がだせる。



示された場所に向かい、石の器の横にある親玉の腹のマークの裏を探せ。

なぞ9

二人はモンスターの親玉を倒した。

ひと息したのもつかのま、近くの壁が裂れ

「火の剣が眠る遺跡」の情報を手に入れた。

リオとアイラは、さらに森の奥へと進む。

やがて、古びた遺跡の入口が姿を現した。

「……あれ、入口が二つあるよ？」

「異なもありません。気をつけて進みましょう」

二人は顔を見合わせ、慎重に足を踏み入れた。

ただ、正しい入口から武器である火の剣まで

床を  の順に進み、

通った文字を読み。



示された場所で見上げるほどの橋へと向かうまっすぐな道を目指せ。その道中にある銀の鳥のそばを探せ。

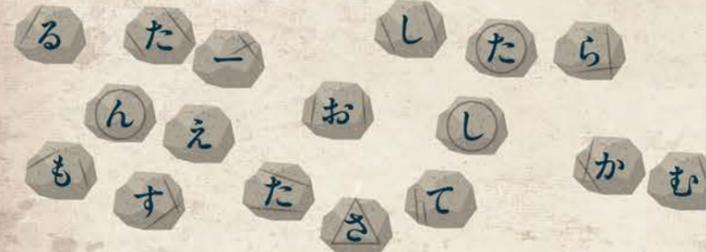


なぞ10

火の剣を手に入れたリオとアイラは、「竜人の心」を探するため岩場へと向かった。そこは、どうやらモンスターが岩に化けて身を潜めている危険な場所のようだ。「えっと……たしか、岩に化けたモンスターの特徴は……」

「先ほど、看板に注意書きが書かれていたような気がしますよ」二人は顔を見合わせ、慎重に足を進めた。

モンスターの特徴のないものを探して下から読もう



示された場所の段をのぼった先で海を見渡すテラスにある灯の下を探せ。

**この先注意!!**

モンスターが襲ってきます

岩に擬態したモンスターの特徴は

か

の模様が付く。